

CASBEE® 名古屋

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE 総合性能評価システム 省エネルギー・省資源・省CO2排出量評価システム (2016年7月改訂) 使用評価ソフト: CASBEE_Nagoya_2016(v3.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)オープンレジデンシア瑞穂区神前町一丁目	階数	地上10F
建設地	名古屋市瑞穂区神前町一丁目56	構造	RC造
用途地域	近隣商業地域・第一種住居地域・準防火地域	平均居住人員	XX 人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2025年5月 予定	評価の実施日	2023年11月20日
敷地面積	1,033 m ²	作成者	
建築面積	307 m ²	確認日	2023年11月20日
延床面積	2,604 m ²	確認者	

外観パース等
図を貼り付けるときは
シートの保護を解除してください

2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)	2-2 ライフサイクルCO ₂ (温暖化影響チャート)	2-3 大項目の評価(レーダーチャート)
<p>BEE = 1.1</p> <p>S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B-: ★★★★★ C: ★</p>	<p>30%: ☆☆☆☆ 60%: ☆☆☆ 80%: ☆☆☆ 100%: ☆☆☆ 100%超: ☆</p> <p>標準計算</p> <p>①参照値 100% ②建築物の取組み 62% ③上記②以外のオンサイト手法 62% ④上記③オフサイト手法 62%</p> <p>46 (kg-CO₂/年・m²)</p> <p>このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです</p>	

2-4 中項目の評価(バーチャート)		
<p>Q 環境品質 Q のスコア = 2.9</p>		
<p>Q1 室内環境 Q1のスコア = 3.6</p>	<p>Q2 サービス性能 Q2のスコア = 3.2</p>	<p>Q3 室外環境(敷地内) Q3のスコア = 1.8</p>
<p>LR 環境負荷低減性 LR のスコア = 3.2</p>		
<p>LR1 エネルギー LR1のスコア = 3.4</p>	<p>LR2 資源・マテリアル LR2のスコア = 2.7</p>	<p>LR3 敷地外環境 LR3のスコア = 3.3</p>

3 設計上の配慮事項		
<p>総合</p> <p>潜熱回収型ガス瞬間給湯器、節湯型水栓などを採用した、エコ住宅をコンセプトとしています。</p>		<p>その他</p>
<p>Q1 室内環境</p> <p>24時間換気を採用し、シックハウス対策を行いました。</p>	<p>Q2 サービス性能</p> <p>劣化対策等級3としています。</p>	<p>Q3 室外環境(敷地内)</p> <p>街並みに調和するよう、外壁等の素材、色を決定しました。</p>
<p>LR1 エネルギー</p> <p>潜熱回収型ガス瞬間給湯器を採用し、熱効率の良いものにしました。</p>	<p>LR2 資源・マテリアル</p> <p>節水型便器を採用しました。</p>	<p>LR3 敷地外環境</p> <p>駐輪台数を多く設置しました。</p>

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

重点項目スコア・結果シート

(仮称)オープンレジデンス 瑞穂区神前町一丁目

■使用評価マニュアル:

CASBEE-建築(新築)2016年版、名古屋市建築物環境配慮制度運用マニュアル

■評価ソフト:

CASBEE_Nagoya_2016(v3.0)

重点項目	評価	全体に対する 重み係数	重点項目 スコア
1. 温暖化対策			3.5
LR1 エネルギー	3.5	0.4	
LR3.1 地球温暖化への配慮	4.5	0.1	
LR3.2.2 温熱環境悪化の改善	2.0	0.05	
2. 自然共生			1.3
Q3.1 生物環境の保全と創出	1.0	0.09	
Q3.3.1 地域性への配慮、快適性の向上	無	0.009	
Q3.2 まちなみ・景観への配慮			
Q3.3.2 敷地内温熱環境の向上	2.0	0.045	
3. 循環型社会			2.6
LR2.1 水資源保護	3.4	0.06	
LR2.2 非再生性資源の使用量削減	2.4	0.18	
LR3.2.3 地域インフラへの負荷抑制 ※2	2.3	0.01875	

結果

1. 温暖化対策	評価点 = 3.5
2. 自然共生	評価点 = 1.3
3. 循環型社会	評価点 = 2.6

重点項目のスコアは以下のように算出している。

$$\text{重点項目スコア} = \frac{(\text{評価点} \times \text{全体に対する重み}) \text{の総和}}{\text{全体に対する重みの総和}}$$

※1 ここでは、Q3. 3. 1の評価する取組みのうち評価項目 1) 2) 地域性のある材料の使用 又は、Q3. 2において評価する取組みのうち評価項目 4) 地域性のある素材による良好な景観形成 のいずれかでポイントがある場合は「有」、ない場合は「無」を評価とした。重点項目スコアの算出における評価点は評価「有」の場合は5、「無」の場合は1とし、重みはQ3. 3. 1の全体に対する重みに0. 2を乗じたものとしている。

※2 ここでは、LR3. 2. 3のうち、LR3. 2. 3. 3 交通負荷抑制 を除いたもので評価点及び全体に対する重み係数を算出している。したがって、ここでの評価点はスコアシートにおけるLR3. 2. 3の評価点とは異なるものである。